

地域に根ざした施設を目指す

触れ合って

絆の杜

支えあって

第28号 平成22年7月20日

発行所

社会福祉法人 光道園

鯖江 福井県鯖江市和田町9
TEL (0778) 62-1234 (代)
FAX (0778) 62-0890

朝日 福井県丹生郡越前町朝日22
TEL (0778) 34-1220 (代)
FAX (0778) 34-2099



6月10日にミニ運動会が開かれました。パン喰い競争のワンショットです。

【ライフトレーニングセンター・療護一課】

(撮影・榮 晃彦)

主な内容

光道園園長挨拶…………… P2

全国盲人福祉施設大会 福井市で開かる… P3

光道園ひかり会からのご報告…………… P4

文句なしの『1等賞』…………… P5

のぞみ工房 陶華星…………… P5

さくら館の送別会…………… P6

地域における施設の役割…………… P7

通所の方に対する日中活動支援…………… P8

クッキー工房 フ・クレール…………… P8

その方の楽しみを…………… P9

情報開示…………… P10,P11

新任職員の紹介…………… P12

点字図書寄贈…………… P13

笑顔がいっぱい!…………… P14



職員の安定雇用

社会福祉法人 光道園 園長 土肥 芳一

平成十八年四月から特別養護老人ホーム「第三光が丘ハウス」が老朽化による改築によって、それまでの四人部屋を中心とした従来型から全室個室にして入居者のプライバシーに配慮した新型特養のユニットタイプになり、利用定員も入所七十名、短期入所十名に増床しました。

平成二十一年四月からは、身体障害者四施設が障害者自立支援法による新体系に移行し、日中活動では、「就労移行支援」、「就労継続支援B型」、「自立訓練事業（生活訓練）」、「生活介護事業」、「日中一時支援事業」、夜間は「施設入所支援」、「短期入所支援」等の福祉事業活動に取り組み、地域の方の利用も増えています。

また、平成二十二年四月からは、ライトホープセンターにショートステイ二床、日中一時支援事業五名を開設し、視力障害者への支援向上だけではなく、地域の障害者・児が必要とする福祉サービスに取り組むこととしました。

老人施設においても、平成二十二年四月から公的な制度（措置制度、介護保険制度等）以外で短期入所を希望する場合（家庭内暴力、虐待等）、法人独自に養護老人ホーム内に二床設置しました。

これらの新しい福祉サービスを実施していくのに、職員が平成十七年四月には法人全体で二百三十二名でしたが、平成十八年四月には二百五十六名となり、平成二十年四月に二百七十二名で、平成二十一年四月には三百十三名となり、平成二十二年四月では三百三十六名（正規職員

二百六十五名、嘱託職員一名、契約職員七十名）とこの五年間で百名以上増え大企業並みの職員数になっていきます。この他に非常勤嘱託医二名、登録ヘルパー五名がおります。

福祉系に進学する学生が減少し、数少ない福祉系の学生が福祉関係に魅力を感じない状況の中、職員の確保、特に、正規職員の確保には法人挙げて精力を注いでいます。

職員からの紹介、福祉系の施設実習生への勧誘、学校訪問、福井県福祉人材センターやハローワークへの求人広告等多方面への働きかけで、必要職員数をなんとか確保できています。

職員の確保ができて安堵している訳にはいかず、採用した職員が安心して働け、福祉の専門職として、一日も早く力を発揮できなければ、法人全体の職員の資質が低下してしまいます。それは、とりもなおさず利用者に影響を与えてしまうことになる。利用者が安全に、安心して生き生きと生活する姿こそが本来の姿だと考えます。

平成十七年四月以降に採用になった、経験年数五年未満の職員が百五十四名（四十五・八％）、経験年数十年未満の職員が百九十八名（五十八・九％）と若干不安な数値に見えますが、経験年数三十年以上の職員が五十一名（十五・一％）、この中には創設者・故中道益平氏と苦楽を共にした者も三十七名（十一％）おり、平均勤続年数は十二年（正規職員十三年、契約職員八年）…全国平均が六・七年…と少し安心な面も数値からは取れます。

特に、この三年間は学卒者の離職者はゼロで現在取り組んでいる職員育成体制が、大きくは外れていないのだからと実感し、今後も新規学卒者を中心に採用計画をしていきたい。

採用前の事前体験（三日程度）、直前実習（一週間程度）、採用後の新採用者研修、フォローアップ研修、各施設でのOJT（職務を通じての研修）、県社協等主催の段階的あるいは職種別のOFFIJT（職務を離れての研修）にも積極的に参加し、自主的なSDS（自己啓発援助制度）にも十分満足とまではいかないが精一杯配慮しています。

上司（施設長・課長・主任等）との半年毎の育成面接、年一回の自己申告書を通して、現時点での仕事の取り組み方、専門能力を確認し、モチベーションを高めてもらうことも平成十七年度から取り組み徐々に根付いています。

施設外研修も各施設長・課長の判断と、各職員の希望を反映する形で実施し、老人施設の職員が障害者関係の研修に参加したり、あるいは障害者の職員が老人関係の研修に参加したりして、幅広い見識を得ている。研修後の報告会も実施して共通認識に努めています。

こうした取り組みの一つの結果として、現行の介護のプロとしての介護福祉士資格取得者が百七十九名（五十三％）…全国平均が二十五％程度…となっています。

福祉サービスが、尊厳を重視したものへ、多様で個別性を重視し、利用者と深くかかわり合う「人材重視のサービス」に転換が進められている。

職員満足度が福祉サービスのレベルを高め、それが利用者満足度を高めることにつながり、最終的に法人の安定経営につながっていくと考えます。

今後、更なる職員の資質向上に法人を挙げて取り組んでいきたい。



「全国盲人福祉施設大会 福井市で開かる」

第一光が丘ハウス・第二光が丘ハウス 施設長 吉田龍雄

去る平成二十二年六月三日、四日の二日間、福井市の「ユアーズホテル フクイ」で全国盲人福祉施設大会（以下・日盲社協大会）が開催されました。今回で第五十八回を数える歴史ある大会です。

今回この大会が福井で開催されるに当たり社会福祉法人光道園（特に協議会に加盟しているライトホープセンターと第二光が丘ハウスを中心に）が主管施設として運営面で協力をしました。



茂木幹中央理事長

主催者である『日本盲人社会福祉施設協議会』には全国の点字図書館（視覚障害者情報提供センター）や視覚障害者の入所型老人・身障施設、歩

行訓練士などを養成するライトハウス関係、福祉用具の開発などに係る事業者など二百を超える施設が加盟しています。今回の大会は年一度の関係者が一堂に会する総会的要素があり、全国各地から約百六十名を超える参加がありました。

文字通り全国の盲人福祉施設の関係者が一堂に会し、制度、情報、暮らし等について様々な情報・意見交換をする機会です。今回は特に「良質な福祉サービス」、「地域支援での施設の役割」、「施設職員の資質向上」等が中心議題として話し合われました。

また後援としていつもお世話になっている読売光と愛の事業団、日本テレビ系列愛の小鳩事業団、テレビ朝日福祉文化事業団等の関係者の出席もありました。

式では点訳や音訳などを永年続けてこられたボランティアの方々の方々の表彰や永年勤続職員の表彰なども併せて行われました。

初日にはこの協議会の特徴である六つの事業部会に分かれての議論も熱心に行われました。「点字出版部会」、「情報サービス部会」、「リハビリテーション部会（ライトホープセンターはこの部会に所属）」、「就労支援部会」、「生活施設部会（第二光が丘ハウスはこの部会に所属）」、「盲人用具部会」がそれぞれです。



全国大会の様子

二日目には講演会も行われ四天王寺大学大学院教授・榎英弘氏の「障害者権利条約と視覚障害者」という演題で講演があったり、パネルディスカッションがあり壇上に視覚障害を持たれた当事者の方々が上がり力強く自分の人生や今後の抱負などを述べられていました。この大会の特徴の一つに当事者の方々の参加が多いということがありますが、どの方々も立派で凛としておられ自施設では理事長や施設長をされておられる方々が多くおられます。その方々が様に口にされるのが『同志・中道益平を生んだ福井の地』という言葉です。この言葉の重みと当事者の方々の熱くて強い思いを感じることに出来た有意義な大会だったと思います。毎回この大会の最後に「大会アピール」を出します。ことしのアピール文の最後は「東京に初めて日盲社協の本部事務所が出来る。小さいながらもこの城を拠点に我々が益々一致団結して日本の法人福祉の推進のためにさらに邁進しよう。」と締めくくられています。



光道園ひかり会からのご報告

光道園ひかり会 会長 小野 和男

ひかり会の皆様にはご健勝でお越しのこととお慶び申し上げます。平素は会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

特に、このたびの光道園第五期施設整備事業としての養護老人ホーム建設賛助金については多大なご協力を賜り、深く感謝申し上げます。工事は無事完成の運びとなり平成二十二年三月末に落成式典が行われました。施設側とは今後とも入所者が安心と安全な環境のもとで穏やかな生活ができるよう色々な面で連携してまいります。

つきましては、会員の皆様方に対し何分の賛助金をお願いいたしておりましたところ、多分のご厚志を寄せて頂き、平成二十二年五月三〇日現在で、二五六件 六、二六〇、〇〇〇円をお受けすることができました。

これに関して光道園から、ひかり会の皆様に対する丁寧な誠意と共に現時点での用途等として

東屋設置	三、一五五、〇〇〇円
遊歩道手摺り設置	一、一〇七、五〇〇円
物干し金物設置	一、〇一五、二〇〇円
右記諸経費・消費税等	六〇二、三〇〇円
シルバーカーマーチ	二六、〇〇〇円
セーフティーアームウォーカー	三四、〇〇〇円
ドクターメドマー	一〇八、〇〇〇円
車椅子対応体重計	二二二、〇〇〇円

のご意向を受け、ひかり会で協議のうえ、五月三〇日、ひかり会役員会の場において光道園御当局に贈呈しましたことをご報告致します。



建設賛助金物品・目録贈呈の様子

会の報告としましては、定例の役員会に加え隔年開催の総会を平成二十一年八月に開きました。参加者は会員十八名、施設側との意見交換会の時間を設けました。

また平成二十一年十月には光道園が主管施設として開催された「第三〇回全国盲重複障害者福祉施設



新しい養護老人ホーム前に完成した東屋

研究記念大会」の会場が地元の福井市内でしたので九名の会員が参加いたしました。大会初日は、開会式で元園長の山内進氏が会長表彰を授賞、眞家氏の基調報告、施設間の各分科会、全国家族会の総会、情報交換会がありました。二日目は厚生労働省障害福祉専門官の「行政説明」、記念講演として「施設職員専門性について」、いずれも豊富な資料により貴重な説明を拝聴する機会を得ました。平成二十二年五月三〇日の役員会では、完成した養護老人ホームを見学いたしました。真新しい部屋、設備で生活を始められた入所者の満足げな表情が印象的でした。最後になりますが、現在の役員会の総意として役員数を増やす事でより多くの会員同志のつながりを広めようという方向です。ご協力を宜しく願います。

文句なしの『👉等賞』～「鯖江つつじマラソン」で選手宣誓～

ライトワークセンター（セルプー課） 大林 康友



『宣誓、われわれ選手一同は、市成 55 周年という記念すべき日に、第 32 回鯖江市つつじマラソンに参加できることに感謝し、楽しく、最後までマイペースで走りきることを誓います。平成 22 年 5 月 9 日、つつじマラソン選手代表、佐々木儀範。』

5 月の快晴の大空に声高々に、つつじマラソン参加者 3,543 名の代表としてライトワークセンターの佐々木儀範さんが選手宣誓を努めました。

今回選手宣誓の依頼のあった経緯としては、佐々木さんの年齢が 55 歳、市が成立 55 年ということで同じであったことと、誕生日が大会前日の 5 月 8 日であったことから選ばれました。

選ばれた際には、職員からは「え～、大丈夫かな～」など心配する声があがっていましたが、本人は「はい、光栄なことなので喜んで。」と、何のためらいもなく引き受けていました。利用者の物怖じしない態度に返って心配してしまいました。また、「初めてのことなので話す内容をこちらで少し考えましようか。」と尋ねると、本人「自分で考えてみたいので 1 週間ほど時間をください。」と言われ、またまた心配になってしまいました。本人の強い前向きな姿勢に負けお願ひすることとしました。

その後、何度も練習を重ねましたが、恥ずかしいのか腕が縮こまっていたり、声もぼそぼそと言ったりと不安を抱えたまま本番を迎えました。

当日会場に向かう車内で、失敗してはいけないと思い何度も練習をしました。本人は余裕しゃくしゃくで冗談を言っていました。私（伴走者）は本人以上に緊張してしまい心臓がバクバクでした。大会長、市長の話が終わりとうとう本番です。アナウンスが入り選手宣誓に選ばれた経緯などの説明の後、「選手宣誓は佐々木儀範さんです。どうぞ」と呼ばれました。スタンドマイクまで小走りで駆け寄り、右手をピンと空に立て、胸を張り「宣誓…。」会場の選手・大会関係者の眠たい顔に先制パンチをあびせるくらいすばらしい声で宣言し、周囲を驚かせました。「本当に良い選手宣誓でした。ありがとう。」と何人もの大会役員の方に声を掛けていただき、私も鳥肌が立つくらい本当にすばらしい選手宣誓でした。

ホッとしたのも束の間、次は本来の目的であるマラソンです。ちょうど見どころとなったつつじが咲き、心地よい風が吹く絶好のマラソン日和、4 月から練習した成果を発揮するため二人で息を合わせて走りました。沿道からの応援を背に一生懸命走り、タイムは 2 km で 16 分 20 分。マラソンの順位は残念な結果でしたが、今日の佐々木さんは総合点では文句なしの 1 等賞でした。本当にお疲れ様でした。

なお、当日は多くの方に応援していただき、大変勇気づけられました。本当にありがとうございました。



のぞみ工房 陶華星

日頃は、のぞみ工房『陶華星』をご愛顧いただき誠にありがとうございます。さて、今年度に入りのぞみ工房『陶華星』では、手作り商品の開発を本格的に開始いたしました。一つ一つ丁寧にまごころ込めて作っておりますので、ご来店の際は是非、手にとって御覧になってください。

〒 916-8585 鯖江市和田町 9-1-1 光道園ライトワークセンター内「陶華星」
TEL : 0778-62-8103 FAX : 0778-62-3775



さくら館の送別会

ライフトレーニングセンター（療護二課）

酒井初恵

ライフトレーニングセンターが鯖江市和田町に引越しをして、ヘレンホーム三十一名（盲ろう者）のご利用者とローンホーム三十名（盲重複障害者）のご利用者が新しい建物で一緒に生活を始めてから、六年が経ちました。引越し当初は多少の混乱も多かったと聞いています。一年いちねんの積み重ねがあつて今日のさくら館となっていることを実感しています。現在はローンとヘレンのご利用者の方々と職員とが六つのユニットに分かれて、利用者お一人おひとりに応じた介護や支援と、ご利用者の個々のリズムやペースに寄り添うことを目標にして取り組んでいます。また、「共食」の意味を理解しながら行事や活動の中でご利用者の方々と、その機会を大切にしています。

寒かった季節がいつの間にか暖かく感じる季節になりました。



やっと春が来たと嬉しく思うと同時に今年度も三月で終わりか……。寂しさとも焦りが出てきます。また、三月は職員の退職と異動職員の発表があります。さくら館もベテラン職員二人の異動と契約職員一人の退職がありました。三月二十四日の「送別会」の様子を紹介します。十一時半、利用者、職員達が拍手で待ち受ける廊下に、エレベーターが開き、送られる職員三人が現れました。初めに課長からお話があり、送られる職員達は少し緊張した表情で挨拶をしています。職員は利用者お一人おひとりに話しの内容や状況を伝えていきます。次に、それぞれのユニットに分かれて食堂やリビングで会食が始まりました。こうしてゆつくりと食事しながらお話しが出来るのも、あとわずかと思うと寂しさがこみ上げてきます。食事も落ち着いたら十三時から、送られる職員は各ユニットのテーブルに行き、記念写真やお話しをして回りました。あちこちで楽しそうな大きな笑い声が聞こえてきます。十四時半、い

よいよ終わりに近づいてきました。再び集まって、送られる職員に利用者の方から感謝のプレゼントをそれぞれお渡ししてもらいました。綺麗な花束と今年一年間の思い出の写真アルバム



と、今日一緒に撮った記念写真と溢れんばかりのこの想いです。送られる職員の新しい門出を祝ってライスシャワーではなくラムネシャワーを利用者と職員が協力して、送られる職員の方々にかけました。

この日も父兄の方、ボランティアの方、土肥園長、総務課職員と多くの方々のご協力がありました。三月は巣立っていく月です。また、多くの職員が優しい気持ちを頂く月でもあります。こうして、さくら館の「送別会」が終わりました。いつでも温かく優しく迎えてくれる利用者の方々と職員が、さくら館にはいます。癒されたい方は是非さくら館にお越し下さい。

地域における施設の役割

～「短期入所事業」と「日中一時支援事業」スタート～

ライトホープセンター（援護一課）課長 杉本 博

2006年に障害者自立支援法が施行され、光道園も昨年4月に新体系サービスに移行しました。ライトホープセンターにおいても、日中活動の場（生活介護と自立訓練）＋住まいの場（施設入所支援）のサービスの組み合わせを選択し入所施設としてのサービス提供を行っています。また一方で障害者自立支援法の大きな目的である障害のある人が地域で安心して暮らせる社会の実現を支援する観点から、在宅生活をされている方々の通所利用（現在常時2名利用）にも取り組んでいます。このように地域福祉における施設の役割は増大しており、今年度からは短期入所事業と日中一時支援事業にも取り組むことになりました。

短期入所事業について

短期入所（ショートステイ）とは、障害者（児）を介護している家族が、社会的理由又は私的理由により在宅における介護が一時的に困難になった場合、短期間施設をご利用いただき、入浴や食事等日常生活に必要なサービスを提供し、在宅の障害者及び家族の介護の負担の軽減を図ります。利用するには、自立支援給付費の支給決定を受ける必要があります。

ライトホープセンターでは、4月より2床の短期入所事業をスタートしました。個室にテレビ、タンス等を設置し住環境に配慮しています。現在は、2名の方が継続的にご利用されており、日中は他の施設に通われる方もおりますので、早出職員を増員して支援しています。利用者の方々の満足はもとより、ご家族の方々の要望に沿えるように支援しています。



短期入所事業 部屋

日中一時支援事業について

日中一時支援とは、障害者（児）の日中における活動の場を確保し、家族の就労支援及び日常的に介護している家族の一時的な休息を目的としています。利用するには、市町より日中一時支援の利用決定を受ける必要があります。

越前町からの要望もあり4月よりスタートしました。日中一時支援を行う場所を「にこにこルーム」と名付けて、おもちゃ、絵本、音楽などを準備し子供たちの安全とご家族の安心を心掛けています。越前町在住の障害児が中心



にこにこルーム

で養護学校や地元の小中学校が終了した放課後に、越前町の送迎車で「にこにこルーム」までやって来ます。帰りはご家族（仕事が終わってから）の迎えや、施設の送迎で帰られます。面接にはすでに13名の方がこられ、それぞれに困難な実情をかかえておられ支援の必要性を痛感しています。今後の展開としては、①夏休み（7:30～18:30）時の対応とボランティアの確保 ②土日祝日の営業（9月から行なう予定）③送迎の確立などを積極的に取り組みたいと考えています。

短期入所事業・日中一時支援事業に取り組みだしてまだ2ヶ月しか過ぎていませんが、入所施設としての役割をしっかりと継続し、また、光道園が地域福祉の中心的な受け皿として地域住民から信頼されるように努力していきたいと思っております。

通所の方に対する日中活動支援

光が丘ワークセンター（セルプ二課） 津田真一

光が丘ワークセンターでは、昨年度より就労支援事業の一つとして、通所利用を行なっております。就労継続支援B型に二名、就労移行支援に一名と小規模事業ではありますが、通所利用されているそれぞれの方が各作業にて頑張っている様子が伺えます。

就労移行支援事業においては、施設外作業及び実習

にも取り組んでおり他施設との連携による清掃実習やセルプ振興センターからの依頼による養護学校内でのプール清掃作業など積極的に仕事を請負っております。Aさんは、以前清掃業の仕事も経験していた事もあり、「身体を動かした仕事の方が良い」という希望から同一法人内の施設において清掃作業・実習を行うようになり、各



ピングの手洗い場の清掃・フロアーのモップ・掃除機を掛ける等かなりハードな実習でした。ですが施設の職員からも、「すごくきれいに掃除されていて、助かる」との評判を頂いています。また、「ご本人も「やっぱり、掃除とか…身体を動かしていた仕事の方がやりがいあって、すごくいいです」と生き生きと作業され



ていました。今後、仕事に定着してきたら、一般雇用結びつきたいと考えており、支援を継続しつつもご本人と話をしながら、次のステップに繋げていきたいと思っています。プール清掃では、プール槽のデッキブラシ磨き・側溝の掃除・ゴミ拾いと悪天候の中大変でしたが最後までやり遂げました。さすがに疲れた様子でしたが、達成感と自信に満ちた表情にも見えました。その他、一般就労を目指している方も通所の方に限らず多数いらっしゃいますので、求人関係等情報がありましたら、是非光が丘ワークセンターまで、よろしくお願ひします。

また、就労継続支援B型では、今年4月から利用されている十八歳の女性の方がクッキー作業に従事されており、毎日楽しく販売・製造に頑張っております。就業時間は毎日午前十時から始まり、午後四時までの五時間の間で、毎日集中して作業されています。作業の内容は主に、製品パッケージのシール貼りやクッキーの詰め合わせの製品を箱に詰めていく仕上げ作業を中心に従事されています。マイペースな性格ですがアドバイスに従って、しっかり仕事をされており、下準備・仕上げのポジションに關しては、欠かせない存在になっています。また、従事されている周囲の利用者の中でも、その性格などから可愛がられておりアイドル的存在で、人気者でもあります。その他にも、クッキー関係では昨年から外部での販売や



クッキー工房から 新商品のご紹介と 定番クッキーのお勧めです。
このたびはミックパラーズの歌「四季の風さん」をイメージして
軽く香ばしいアーモンドマカロンを作りました。



是非一度
ご賞味ください

また、お中元にクッキー詰め合わせ
1,000円 1,500円 2,000円 3,000円等
ご用意いたしておりますので ご利用下さい

クッキー工房 フ・クレール 電話 0778-34-2121
FAX 0778-34-8005

イベント関係のポリュームアップも計画、実行しております。販路も拡大して頑張っております。地方発送も承っておりますので、今後とも光が丘ワークセンター クッキー工房 フ・クレールをよろしく願ひします。
(クッキー工房・フ・クレール 電話 〇七七八―三四―二二二二)



そ の 方 の 楽 し み を

第三光が丘ハウス 高齢福祉二課 山田 真奈美

「今度はどこに行き、まだ行ってないところあるかなあ」

毎月のドライブ外出を楽しみにしているMさんの言葉です。私に「福井県ドライブマップ」を手渡し、「これ昨日課長と散歩行って道の駅で取ってきたんや」と嬉しそうに話します。まだ60代と若く、面白いことが大好きなMさんは、去年4月から毎月の買物外出に加えてドライブにも出かけるようになり、現在は月2回外出しています。去年一年間で、福井駅周辺、越前海岸周辺、花はす公園と南条サービスイリア周辺散策、武生菊人形、三国東尋坊・道の駅、悠久ロマンの里などに出かけました。

このドライブ外出は個別で、Mさんと2人の職員とで行くので、たくさん話しながらMさんのペースに合わせて見て回ることができます。ゆっくりかかわるなかで、Mさんの様々な表情を知ることができました。目的地までの車中では「この辺知ってるな」「こっちに行くところがあるんじゃないか」などいつも以上に口数が多く、会話も弾みます。ドライブ先で珍しい物を見ると「うひひ」と笑い、他の施設から来ている人を見つけると「来てるんやな」と目配せしてきます。新しい物、見たことのない物、珍しい物、面白い物を見たいという気持ちがストリートに伝わってきます。また、



欲しい物いらない物がはつきりしているMさんの買物は、うらやましいと思うほど気持ちがよく、珍しくMさんが悩んでいると私が「こっちがいんじゃないですか？」と声をかけ

ますが、同じく私が悩んでいると「ねえちゃんにはこっちが似合うと思う」とアドバイスをくれます。最近では「この団子美味しいってみんなに言ってもたでな、お土産に買って帰らなな」と言ってユニット職員に団子を買って、「はい」と渡してくれました。また、春に初めて他の利用者と一緒に外出した時は、出かける前はその人に「おんちゃん、一緒に行くんやな」と嬉しそうに話し、外出先でもたくさん話しかけていて、その人のことを気にかけている様子が伝わり、日頃の生活以上にMさんの優しさや気配りを感じることができ

ました。いつも帰ってくると「楽しかった。やっぱり外に出かけるのはいいな」とMさんは言います。そして、この数日後に冒頭の一言へと繋がっていくのです。

最後に、Mさんのいる「やまぶきユニット」ではすべての方が外出できるような状況ではありません。また、外出が苦手な方もいます。その方の体調や思いに合わせて、例えば外出が好きな方はつじや映画を見に出かける。外出にはいけないけど大好きな友達が隣の建物にいる方は職員と一緒にその方に会いに行く。家族が大好きな方は誕生日に家族を招いて一緒にゆっくり過ごす。私たちの生活も毎日がイベントではなく、しばらく先に待っている楽しみに向けて毎日頑張ろうと思えるのだと思います。このように、やまぶきユニットでは、生活に潤いを与えてくれる、その方の「楽しみ」をこれからも見つけていき、大切にしたいと思っていま



情報開示 社会福祉法人 光道園

貸借対照表 平成22年3月31日現在

(単位：千円)

勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
資産の部				負債の部			
流動資産	1,700,727	1,230,780	469,947	流動負債	651,443	260,731	390,712
現金預金	1,058,549	790,455	268,094	未払金	623,456	234,422	389,034
未収金	640,545	436,026	204,519	預り金	24,240	23,332	908
仮払金	0	2,303	△ 2,303	仮受金	773	1,381	△ 608
売掛金	1,103	1,294	△ 191	買掛金	2,974	1,596	1,378
商品・製品	23	0	23				
原材料	507	702	△ 195	固定負債	299,955	314,656	△ 14,701
固定資産(基本財産)	4,016,480	3,392,564	623,916	設備資金借入金	212,500	235,000	△ 22,500
建物(基本)	3,814,556	3,190,640	623,916	退職給与引当金	87,455	79,656	7,799
土地(基本)	201,924	201,924	0	負債合計	951,398	575,387	376,011
その他の固定資産	464,818	859,393	△ 394,575				
土地	18,160	18,160	0	純資産の部			
建物	0	54	△ 54	基本金	969,413	969,413	0
構築物	81,255	59,590	21,665	基本金	969,413	969,413	0
機械及び装置	5,731	8,389	△ 2,658	国庫補助金等特別積立金	1,869,255	1,686,628	182,627
車輛運搬具	3,739	669	3,070	国庫補助金等特別積立金	1,869,255	1,686,628	182,627
器具及び備品	86,235	68,051	18,184	その他の積立金	131,281	624,183	△ 492,902
ソフトウェア	812	641	171	人件費積立金	0	26,000	△ 26,000
措置施設繰越特定預金	0	129,000	△ 129,000	施設整備等積立金	0	103,000	△ 103,000
本部積立預金	131,281	495,183	△ 363,902	建設積立金	127,931	492,000	△ 364,069
投資有価証券	50,150	0	50,150				
その他の固定資産	87,455	79,656	7,799	役員退職謝金準備積立金	3,350	3,183	167
				～次期繰越活動収支差額～	2,260,678	1,627,126	633,552
				～うち当期活動収支差額～	140,651	122,521	18,130
				純資産合計	5,230,627	4,907,350	323,277
資産合計	6,182,025	5,482,737	699,288	負債・純資産合計	6,182,025	5,482,737	699,288

〔脚注〕1. 減価償却費の累計額

1,621,460千円

役員名簿

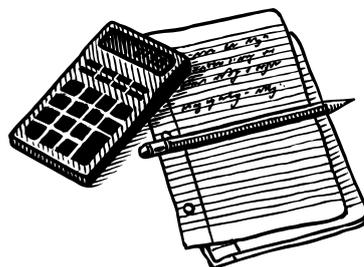
平成22年6月1日現在

理事長	関 捨男	常務理事	土肥 芳一	理事	松山 幸雄	理事	角 佳津見
理事	山内 進	理事	木村 良平	理事	齋藤 邦雄	理事	藤本 武司
理事	渡辺 恭行	理事	荒木 博文	監事	孝久 忠央	監事	春木 誠一

評議員名簿

平成22年6月1日現在

評議員	関 捨男	評議員	土肥 芳一	評議員	松山 幸雄	評議員	角 佳津見
評議員	山内 進	評議員	木村 良平	評議員	齋藤 邦雄	評議員	藤本 武司
評議員	渡辺 恭行	評議員	荒木 博文	評議員	松木 健一	評議員	矢納 正人
評議員	熊谷 忠男	評議員	渡辺 恵	評議員	小野 和男	評議員	田中 伸幸
評議員	岩尾多希子	評議員	中山 集次	評議員	江守 勝	評議員	吉田 龍雄
評議員	鎌谷美智子						



財産目録

平成22年3月31日現在

(単位：千円)

資産・負債の内容	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	1,700,727
売掛金	1,058,549
商品・製品	1,103
原材料	23
未収金	507
2. 固定資産	640,545
(1) 基本財産	4,481,298
建物	4,016,480
土地	3,814,556
(2) その他の固定資産	201,924
土地	464,818
建物	18,160
構築物	0
機械及び装置	81,255
車輛運搬具	5,731
器具及び備品	3,739
ソフトウェア	86,235
投資有価証券	812
本部積立預金	50,150
その他の固定資産	131,281
	87,455
資産合計	6,182,025
I 負債の部	
1. 流動負債	
買掛金	651,443
未払金	2,974
預り金	623,456
仮受金	24,240
2. 固定負債	773
設備資金借入金	299,955
退職給与引当金	212,500
負債合計	87,455
差引純資産	951,398
	5,230,627

資金収支計算書

(自) 平成 21 年 4 月 1 日 (至) 平成 22 年 3 月 31 日

(単位: 千円)

勘定科目		予算	決算	差異
就労支援事業活動による収支	就労支援事業収入	25,110	26,488	△ 1,378
	就労支援事業活動収入計	25,110	26,488	△ 1,378
	就労支援事業支出	25,040	24,580	460
	就労支援事業活動支出計	25,040	24,580	460
	就労支援事業活動資金収支差額	70	1,908	△ 1,838
福祉事業活動による収支	介護保険収入	515,750	518,193	△ 2,443
	利用料収入	150	162	△ 12
	措置費収入	254,610	254,848	△ 238
	受託金収入	8,120	8,559	△ 439
	自立支援費等収入	1,529,180	1,529,216	△ 36
	経常経費補助金収入	32,980	33,400	△ 420
	寄附金収入	27,980	28,198	△ 218
	雑収入	19,490	19,748	△ 258
	受取利息配当金収入	3,410	3,538	△ 128
	会計単位間繰入金収入	63,020	63,000	20
	経理区分間繰入金収入	271,330	264,773	6,557
	福祉事業活動収入計	2,726,020	2,723,635	2,385
	人件費支出	1,447,850	1,443,762	4,088
	事務費支出	300,610	293,998	6,612
	事業費支出	387,820	385,009	2,811
	経理区分間繰入金支出	271,330	264,773	6,557
	会計単位間繰入金支出	63,020	63,000	20
	利用者負担計減額	40	0	40
	福祉事業活動支出計	2,470,670	2,450,542	20,128
	福祉事業活動資金収支差額	255,350	273,093	△ 17,743
施設整備等による収支	施設整備等補助金収入	267,540	269,740	△ 2,200
	施設整備等寄附金収入	10	0	10
	施設整備等収入計	267,550	269,740	△ 2,190
	固定資産取得支出	878,240	877,758	482
	施設整備等支出計	878,240	877,758	482
財務活動による収支	施設整備等資金収支差額	△ 610,690	△ 608,018	△ 2,672
	積立預金取崩収入	593,070	593,068	2
	その他の収入	2,690	2,737	△ 47
	財務収入計	595,760	595,805	△ 45
	借入金元金償還金支出	22,500	22,500	0
	投資有価証券取得支出	50,180	50,180	0
	積立預金積立支出	100,360	100,167	193
	その他の支出	10,670	10,535	135
	財務支出計	183,710	183,382	328
	財務活動資金収支差額	412,050	412,423	△ 373
予備費	59,530	0	59,530	
当期資金収支差額合計	△ 2,750	79,406	△ 82,156	
前期末支払資金残高	0	969,348	△ 969,348	
当期末支払資金残高	△ 2,750	1,048,754	△ 1,051,504	

事業活動収支計算書

(自) 平成 21 年 4 月 1 日 (至) 平成 22 年 3 月 31 日

(単位: 千円)

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増減	
就労支援事業活動	就労支援事業収入	26,488	29,034	△ 2,546	
	国庫補助金等特別積立金取崩額	0	270	△ 270	
	就労支援事業活動収入計	26,488	29,304	△ 2,816	
	授産事業支出	27,650	25,324	2,326	
	減価償却費		1,274	△ 1,274	
	たな卸資産増減額		△ 325	325	
	就労支援事業活動支出計	27,650	26,273	1,377	
	就労支援事業活動収支差額	△ 1,162	3,031	△ 4,193	
	福祉事業活動	介護保険収入	518,193	493,494	24,699
		利用料収入	162	1,275,124	△ 1,274,962
措置費収入		254,848	254,871	△ 23	
受託金収入		8,559	16,422	△ 7,863	
自立支援費等収入		1,529,216	9,603	1,519,613	
経常経費補助金収入		33,400	3,526	29,874	
寄附金収入		28,198	13,011	15,187	
雑収入		19,748	33,521	△ 13,773	
引当金戻入		2,737	6,076	△ 3,339	
国庫補助金等特別積立金取崩額		79,353	79,166	187	
福祉事業活動収入計		2,474,414	2,184,814	289,600	
人件費支出		1,443,762	1,297,427	146,335	
事務費支出		293,998	236,021	57,977	
事業費支出		385,009	379,095	5,914	
減価償却費		177,640	144,250	33,390	
徴収不能額	0	0	0		
引当金繰入	10,535	9,371	1,164		
利用者負担計減額	0	0	0		
福祉事業活動支出計	2,310,944	2,066,164	244,780		
福祉事業活動収支差額	163,470	118,650	44,820		
事業活動外	受取利息配当金収入	3,508	2,678	830	
	会計単位間繰入金収入	63,000	20,000	43,000	
	経理区分間繰入金収入	264,773	123,510	141,263	
	事業活動外収入計	331,281	146,188	185,093	
	経理区分間繰入金支出	264,773	123,510	141,263	
	会計単位間繰入金支出	63,000	20,000	43,000	
	事業活動外支出計	327,773	143,510	184,263	
事業活動外収支差額	3,508	2,678	830		
経常収支差額	165,816	124,359	41,457		
特別収支	固定資産受贈額	798,841	63	798,778	
	施設整備等補助金収入	269,740	10,661	259,079	
	国庫補助金等特別積立金取崩額	7,364	0	7,364	
	特別収入計	1,075,945	10,724	1,065,221	
	固定資産売却原価・処分損	831,371	63	831,308	
	国庫補助金等特別積立金積立額	269,740	12,499	257,241	
特別支出計	1,101,111	12,562	1,088,549		
特別収支差額	△ 25,166	△ 1,838	△ 23,328		
当期活動収支差額	140,650	122,521	18,129		
前期繰越活動収支差額	1,627,126	1,583,255	43,871		
当期未繰越活動収支差額	1,767,776	1,705,776	62,000		
その他の積立金取崩額	593,069	1,350	591,719		
その他の積立金積立額	100,167	80,000	20,167		
次期繰越活動収支差額	2,260,678	1,627,126	633,552		

苦情受付、ヒヤリハット・事故報告状況

苦情解決申出人別分類表 (過去 3 年間)

	19 年度	20 年度	21 年度
利用者	17	26	20
家族	14	8	24
職員	1	2	1
ボランティア	1	0	2
業者	0	0	1
関係者	0	0	1
計	33 件	36 件	49 件

平成 21 年度ヒヤリハット・事故 施設別集計表 (種別上位)

施設名	転倒	投棄ミス	滑落	転落	他傷
ライフ	14	21	9	4	8
ホープ	22	13	1	2	5
ワーク	7	2	0	5	2
光ワーク	1	0	0	2	1
第一・二光ハウス	7	2	0	1	0
第三光ハウス	35	12	25	18	0
地域生活支援	9	1	1	1	1
総務	1	0	0	0	0
計	63 件	53 件	36 件	33 件	17 件

当園における苦情受付状況は平成 12 年 6 月 1 日の社会福祉法の一部改正に伴う第 82 条の規定により、平成 12 年 9 月 18 日に苦情受付窓口を設け、各施設に責任者・受付担当者に加え第三者を委嘱し体制を整え、平成 17 年 4 月 1 日には園内の苦情解決取扱規定、苦情及び事故対応における手順書とフローチャートを設け利用者に周知し、体制の強化を図ってまいりました。平成 21 年度は 49 件 (昨年度比 13 件増) の報告がありました。

一方、ヒヤリハット・事故報告は、平成 16 年度より施設事故予防対策委員会を設け、利用者の安全な生活環境を目指して、重大事故予防の為に事例の検討と対策、職員の事故予防に対する意識高揚に努めています。平成 21 年度は 331 件 (昨年度比 15 件増) の報告がありました。

いずれも当園ホームページに情報公開をしております。アドレス <http://kodoen.or.jp>

新任職員

の紹介

平成22年度
4月～6月採用



★氏名

- ①血液型
- ②星座
- ③趣味
- ④印象的な映画

鯖江事業所

療護一課

★玄海紗緒里

- ①A型
- ②おひつじ座
- ③スポーツ
- ④「シザーハンズ」

★皆川 朋美

- ①A型
- ②おひつじ座
- ③和太鼓
- ④「ルーキーズ」

★畑 未津季

- ①A型
- ②しし座
- ③ピアノ、サックス、バンド
- ④「グラディエーター」

療護一課

★山口奈緒美

- ①B型
- ②やぎ座
- ③ドライブ、ショッピング
- ④「ビューティフル・マインド」

★中村理恵子

- ①A型
- ②つお座
- ③買い物
- ④「タイタニック」

★菱川 瑞希

- ①A型
- ②いて座
- ③マンガ、ゲーム
- ④「ハリポッター」

朝日事業所

援護一課

★福山 貴博

- ①O型
- ②しし座
- ③サッカー、他球技、映画・音楽鑑賞
- ④SF形（隕石、宇宙人、恐竜）など

★牧野 史衣

- ①AB型
- ②おつし座
- ③バレーボール、読書
- ④「アバター」

援護一課

★眞家 昌之

- ①B型
- ②さそり座
- ③釣り
- ④「ショーシャンクの空に」「ロッキー4～炎の友情」

★佐々木美由紀

- ①O型
- ②おとめ座
- ③寝ること
- ④「アリス・イン・ワンダーランド」

★広重眞佐子

- ①A型
- ②おとめ座
- ③手話（の勉強）
- ④「おくりびと」「武士の一分」

高齢福祉一課

★松ヶ谷佳弘

- ①A型
- ②つお座
- ③ギター、サッカー、ドライブ
- ④なし？

★渡邊 明香

- ①O型
- ②つお座
- ③DVD鑑賞
- ④「木更津キャッツアイ」

★北岡 忍

- ①B型
- ②おつし座
- ③読書
- ④「ローマの休日」

高齢福祉一課

★村上 奈穂

- ①A型
- ②みずがめ座
- ③なし
- ④なし

★川端 歩奈

- ①A型
- ②やぎ座
- ③買い物
- ④「アバター」

★片谷 愛美

- ①A型
- ②しし座
- ③カラオケ
- ④「ワンピース」

★木下 美紀

- ①B型
- ②おとめ座
- ③テニス
- ④「アバター」

★黒田 知佳

- ①AB型
- ②おとめ座
- ③花道・茶道・ソフトバレー
など体を動かすこと
- ④「アルマゲドン」「おくりびと」

生活機能支援室

★片山ともこ

- ①O型
- ②かに座
- ③エアロビ、読書
- ④「ベンハー」

★阿部 裕成

- ①O型
- ②いて座
- ③温泉、銭湯
- ④「アバター」

地域生活支援課

★三田村真弓

- ①B型
- ②みずがめ座
- ③小説を書くこと
- ④「余命一ヶ月の花嫁」



感謝いたします!点字図書寄贈

福井県労働者福祉基金協会様より点字図書寄贈のお話をいただきました。福井県労働者福祉基金協会様は、暮らしに関するなんでも相談会等労働福祉の推進を目的に活動されておられます。

“どのような本が読みたいですか。利用者の方はどのような話が好きですか。”

今回の寄贈の話をいただいてから、利用者の方や職員の方にお聞きしました。

「星野富弘さんの詩集なら読みたいな」「坂の上の雲かああ無情」

「盲導犬の話とか読むかな？」

色々な希望をお聞きして、早速東京の日本点字図書館や大阪の日本ライトハウス、また福井県視覚障害者福祉協会へ問い合わせし、注文。作成には時間がやはりかかりましたが、全てが出来上がってきました。ダンボールに6箱分!冊数にして92冊となりました。

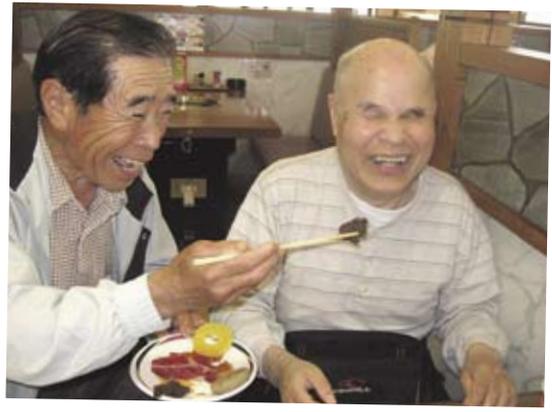
平成22年6月28日(月)に贈呈式を行ないました。



利用者代表のお二人は福井県労働者福祉基金協会の吉田様より点字図書を手渡され、改めて御礼を申し上げ、待ちに待った点字図書を手に一読されておりました。

本当に有り難うございました。





笑顔が
いっぱい!



社会福祉法人 光道園の施設

社会福祉法人 光道園 法人本部	鯖江市和田町 9-1-1
障害者支援施設・ライトワークセンター	鯖江市和田町 9-1-1
障害者支援施設・光が丘ワークセンター	丹生郡越前町朝日 22-2-2
障害者支援施設・ライトホープセンター	丹生郡越前町朝日 22-3-1
障害者支援施設・ライフレニングセンター	鯖江市和田町 9-1-1
日中生活介護事業・たねのいえ	鯖江市和田町 9-1-1

養護老人ホーム・第一光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
養護(盲)老人ホーム・第二光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
特別養護老人ホーム・第三光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
通所介護事業所・ デイサービスセンターさざんかホール	丹生郡越前町朝日 22-7-1
訪問介護事業所・ヘルパーステーションさざんか	丹生郡越前町朝日 22-7-1
居宅介護支援事業所・さざんかホール	丹生郡越前町朝日 22-7-1
越前町障害者支援センター・さざんか	丹生郡越前町朝日 22-7-1